歯学部長　井　上　　　誠

FD講演会について

１．OA義務化

令和７年９月24日（水）に、学術論文のオープンアクセス（OA）義務化に関するオンラインFD講演会が開催されました。来年度より開始されるOA即時義務化に対する新潟大学の対応やAPC支援に関して理解するための講演会として、「新潟大学における即時オープンアクセス対応」と題して学術情報部学術情報管理課オープンアクセス係の藤原幸生先生、「ゴールドOAで公開する場合の本学のAPC支援について」と題して学術情報部学術情報管理課オープンアクセス係 金子亜寿沙係長からご講演いただきました。

２．色覚への配慮

令和８年１月15日（木）に、東京慈恵会医科大学解剖学講座教授　岡部正隆先生を講師として、「色が違って見える世界をつなぐ」と題した対面でのFD講演会が開催されました。色覚の問題を日常生活、臨床、研究の場でどのように配慮すべきかについて、専門的見地から分かりやすくご講演いただきました。

いずれの講演会ともに参加者からは多くの質問やコメントが寄せられ、大変有意義なFD講演会となりました。

令和８年１月15日FD講演会の様子

スリランカ・ペラデニア大学Sajjiv Ariyasinghe教授の表敬訪問について

新潟大学では、国際交流・連携に顕著な貢献を頂いている方々に「新潟大学リエゾンプロフェッサー」の称号を付与し、国際ネットワークの構築・推進に協力頂いています。令和７年10月20日（月）に、新潟市内のホテルにて「第３回リエゾンプロフェッサー・アセンブリー」を開催しました。特に卓越した活動実績を有する、ペラデニア大（スリランカ）のサジブ・アリヤシンへ教授らを招聘し、それぞれの国際交流・研究連携の取り組みについて報告が行われました。各発表では、本学との学生交流や共同研究の成果に加え、今後の国際連携の展望に関する具体的な提案も示されました。アリヤシンへ教授は、新潟大学歯学研究科（当時）を修了後、長きにわたりペラデニア大学と新潟大学との学生交流に貢献されています。アセンブリー終了後には歯学部にも表敬訪問して、両大学のさらなる交流についての議論がなされました。

新潟大学歯学部
創立60周年記念事業について

　歯学部は令和７年に創立60周年を迎え、これを記念して11月１日（土）、新潟市中央区のホテルオークラ新潟にて「創立60周年記念事業」を開催し、市民フォーラム、講演会、祝賀式典、展示コーナーなど多彩なプログラムが行われました。

　市民フォーラムでは、フリーアナウンサーの伊勢みずほ氏より、「がんと向き合う日々でも、笑顔をあきらめないために」と題して、ご自身の闘病経験をもとにお話をいただきました。続いて、「健康を通じて支え合う地域社会」をテーマにパネルディスカッションが行われ、濃野要 歯学部教授の司会進行のもと、伊勢様、新潟県歯科医師会会長松﨑正樹先生、井上誠歯学部長が登壇し、地域における歯科医療の役割や、健康と笑顔を守るための取り組みについて多角的な視点から意見が交わされました。続く講演会では、「歯学部の現状と展望」をテーマに、大学病院歯科の現状と展望（歯周診断・再建学分野　多部田康一教授）、歯学教育の現状と展望（歯科臨床教育学分野　藤井規孝教授）、口腔生命福祉学科の現状と展望（口腔生命福祉学科 濃野要教授）、国際交流活動の現状と展望（予防歯科学分野 小川祐司教授）から、歯学部のこれまでの歩みと今後の展望について紹介があり、参加者は歯学部の多様な取り組みに理解を深めました。

　祝賀式典では、牛木辰男 新潟大学学長、髙田淳子 厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室室長、花角英世 新潟県知事（代読中村洋心 新潟県福祉保健部長）、高橋英登 日本歯科医師会会長、松﨑正樹 新潟県歯科医師会会長らの祝辞に加えて、海外の協定校から寄せられたお祝いメッセージ動画が上映され、国際的な交流の広がりを感じるひとときとなりました。隣りの会場内では、歯学部各分野の教育・研究・診療活動を紹介するパネル展示が行われ、来場者は歯学部の歩みと未来への取り組みを知る機会となりました。

パネルディスカッション

パネル展示の様子

令和７年度臨床実習生（歯学）認定証授与式および臨床実習登院式の実施について

令和７年10月10日（金）に、臨床実習生（歯学）認定証授与式を行いました。本認定証は、昨年度から公的化された臨床実習を開始する前の共用試験（CBT及びOSCE）に合格し、本学が定めた必修単位のすべてを取得することによって診療参加型臨床実習に進むために必要な知識及び技能を具有していることが認められた歯学生に授与されます。今年度は歯学科５年次の学生43名が臨床実習生に認定されました。授与式では、井上誠歯学部長から訓示があり、「入学後に身に着けた知識・技術をもとに、自信を持って臨床実習に臨んでください」と学生たちに期待の言葉が送られました。その後、代表学生からは、「感謝の気持ちを忘れず、より多くのことを学び、経験できる臨床実習にすることを誓います」と決意が宣誓され、井上学部長から代表学生に臨床実習生（歯学）認定証及びネーム刺繍の入った診療衣が授与されました。また授与式に引き続いて臨床実習登院式が行われました。

臨床実習登院式での学生の決意表明

教授人事について

令和６年３月末で退職された小林正治先生（組織再建口腔外科学分野）、魚島勝美先生（生体歯科補綴学分野）、令和７年５月末で退職された瀬尾憲司先生（歯科麻酔学分野）の後任として、令和７年12月１日（月）に岸本直隆先生（歯科麻酔学分野）、小野重弘先生（組織再建口腔外科学分野）、令和８年１月１日（木）に藤井規孝先生（生体歯科補綴学分野）が着任されました。

2025年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」について

今年度歯学部から申請していた標記プログラム「食の健康を守る新世代口腔ヘルスプロモーションリーダー養成プログラム」（対象国東南アジア、定員８名）が採択されました。これで、昨年度採択の「生涯の「食べる」を支える口腔医療コンダクター養成プログラム」（対象国南西アジア、定員３名）を加えて、令和８年にはさらに多くの留学生を迎えることになります。本プログラムの実

施を通して、世界をリードする日本における高齢者歯科医療の核となる摂食機能と食に関する異分野融合研究、改めて重要視されている感染症対策と口腔衛生の相互関係の解明を目指した臨床研究、再生医療に関連する先端臨床・研究を通して、これらを母国で実践できる新世代を担う口腔医療人材育成を養成するミッションを果たしていくことになります。

令和７年度学長裁量ポイント（スイングバイプログラム）について

歯学系への配分予定であった生体制御学分野の齋藤瑠郁先生の採用が認められました。